



データ管理改善支援スタート

水道事業計画策定にとって基礎となるのが各種データ。本プロジェクトでもデータ管理の強化は一番初めに取り組むべき項目と設定されています。前号(No. 01-Jan 2013)でお伝えしたとおり、データマネジメント・ワークショップの結果をJICA専門家団がレビューし、「事業計画策定に必要なデータ項目」としてリストアップされたものが各パイロット水道公社に提示されました。1~2人の日本人専門家がパイロット水道公社に数週間滞在し、水道公社職員による「事業計画策定に必要なデータ項目」の有無やデータ収集の正確性確認について支援を行いました。今回提示した「事業計画策定に必要な…」(続きは 2ページ)



平成24年度短期専門家活動終了

2012年11月28日に到着された鷲野浩介短期専門家(埼玉県企業局)を皮切りに合計7名の短期専門家が本プロジェクトに派遣されました(専門家名、指導科目は前号(No. 01-Jan 2013)参照)。派遣中は限なく、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の3パイロット水道公社施設を巡回していただきました。ラオスでは、県都以外の地方郡にも水道施設が整備され…(続きは 2ページ)



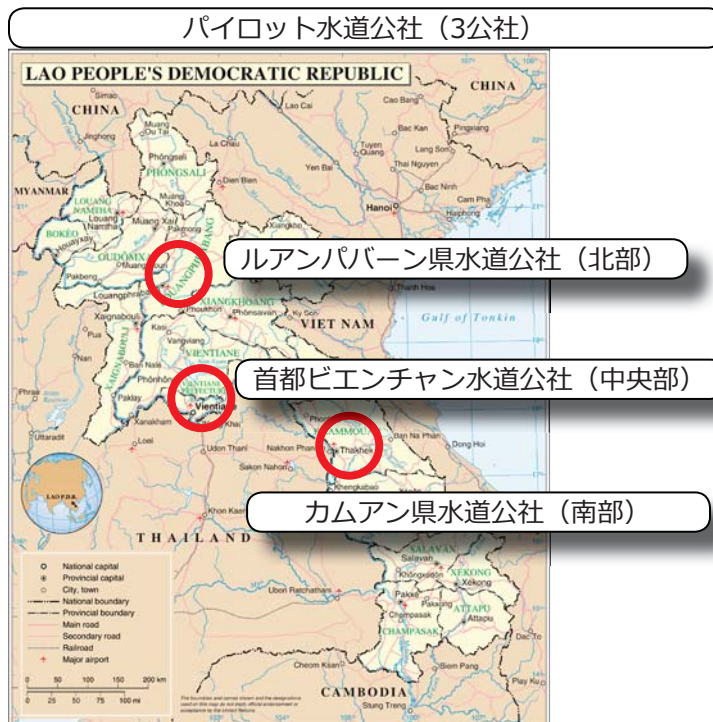
水道事業計画策定・ワークショップ開催

2013年2月26日に公共事業運輸省、首都ビエンチャン、ルアンパバーン、カムアン県水道公社のプロジェクトメンバー約50名が首都ビエンチャンに集合し水道事業計画策定についてのワークショップを実施しました。とわいえ、プロジェクト概要(下段参照)にもあるように、短期計画でさえ自力で策定・更新ができない水道公社にとって、何について、どのように計画を立てれば…(続きは 2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。



データ管理改善支援スタート(続き)

「データ項目」は9つのカテゴリー、全276データ項目で構成されています。データ有無の確認やデータ収集正確性の確認を通じて、更なる必要なデータ項目や曖昧・不必要なデータ項目の削除を行い、最終版の「事業計画策定に必要なデータ項目」が確定します。また、データが無かったり、データ収集に改善が必要と考えられる項目については、「データ管理改善計画」としてまとめられ、それぞれの改善に取り組んでいきます。

概して3パイロット水道公社とも多くのデータを収集していますが、バラバラに保管されていたりするなど一元管理がなされていないようです。正確性については、どのようなものを正確というのか、それをどのように表現し改善計画につなげるのかいろいろな意見が出ました。普段、データを取ることを目的としてデータ収集している職員もいる中で、データ収集について深く掘り下げて考えるいい機会になったようです。

今後、「データ管理改善計画」策定支援とその実施支援を行うとともに、それらのデータを水道公社のサマリー年報としてまとめたり、年次報告書や事業計画、事業指標(PI)、サービス・パフォーマンス目標とサービスレベル(Key Performance Indicators)などに活用できるようアドバイスを行う予定です。



水道局職員とデータ管理の現状を確認する短期専門家(奥2名)

平成24年度短期専門家活動終了(続き)

始めており、県都までの長旅の後に、更に長距離移動の強行軍旅程もありました。そのおかげで、短期間に多くの地方郡浄水施設を訪問し、現状を確認することができました。

明らかに施設整備状況や技術・人材力が違う開発途

上国へ持続性のある技術移転を行う際、ハード及びソフト面の現地の状況を踏まえた「現場の視点」はとても重要です。本プロジェクト実施5年の間に、短期専門家が入れ替わり派遣されることも考慮し、本年度派遣短期専門家の皆さんが各分野で収集した現場の情報を編集し「現状把握報告書」を作成する予定です。



パイロット水道公社の水道施設を訪問調査する短期専門家(左)



パイロット水道公社に滞在しデータ管理改善支援を行う短期専門家(左)

巡回による現状把握活動に加えて、ルアンパバーン県及びカムアン県において、数週間滞在型の活動支援も行っていただきました。別項「データ管理改善支援スタート」にもあるように、プロジェクト活動の第一歩であるデータ管理改善

の支援が中心です。日本では、長年の経験や技術・方法改善によりシステムティックに収集されているデータもラオスではまだまだです。データ収集に必要な配送水ポンプの圧力計や流量計が正確に計り得ない様式のものであったり、故障したまま修繕がなされていなかったりするものもあります。配水管の圧力計も非常にシンプルなものをを用いて工夫している様子が報告されています。短期専門家は、そのような現状を踏まえて、最低限の施設整備を提案するとともに、現状の機材を用いてできる改善(例えば、シンプルな配水管の圧力計で目視による記録方式であっても、1日1回の瞬時データを数多く取るのではなく、場所を限定して1日24回(毎時)のデータを取得し、そこから水圧の推移を時間とともに把握)を提案しました。これらの短期専門家の提案を考慮し、各水道公社は自分たちでできる「データ管理改善計画」を策定していきます。

水道事業計画策定・ワークショップ開催(続き)

よいのか、戸惑っているのが現状です。そのため、今回はJICA専門家から提案した3つのテーマについて話し合ってもらい、現在抱えている問題や課題を未来に向けて解決していくために計画を策定するというアプローチを取りました。話し合った3つのテーマは次のとおりです。

①水安全計画:蛇口からの水は「飲める水」なのか「飲めない水」なのかについて

②NRW: 取り組まなければならないNRW対策にはどのようなものがあり、それらの優先順位(まずなにかからおこなうべきか)について

③お客様と水道料金:お客様サービス(お客様はなにを望んでいるか)と水道料金の有り方について
これらは、普段から各水道公社が考え取り組んでいる



意見を出し合うワークショップ参加者(水道公社プロジェクトメンバー)



まとめたグループの意見を発表(水道公社プロジェクトメンバー)



短期専門家の指導による水道公社機材を用いての水圧テストの実施

事柄なので活発な意見交換がなされ、昼食時間も忘れて意見をまとめているグループも散見されました。

今後は、ワークショップの結果と現在支援しているデータ管理を結びつけて事業計画策定を支援していく予定です。

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>